

# ダム等管理フォローアップ

## 意見を受けての報告書修正対応表

【比奈知ダム】

平成21年 3月

水資源機構  
関西支社

## 【比奈知ダム】

1. 事業の概要  
特になし

2. 治水  
特になし

3. 利水  
特になし

4. 堆砂  
特になし

### 5. 水質

項目	意見	整理状況	今後の対応方針
5.5.5 富栄養化現象に関する評価  本編 P5-120	・貯水池内の水質評価の所見が少ない。特に富栄養化が一番問題になると思われる。たまたま最近アオコの集積が少なくなっているだけで、アオコの集積の問題、クロロフィルの動向の問題についても記述するべきである。	【委員会の意見により修正】 ・管理開始から10年程度のダムであり、貯水池の状況は不安定であり、今後も注視していく必要がある旨を追加する(p5-120)。	-
5.6.2 分画フェンス  本編 P5-128	・分画フェンスによって流入河川からの栄養塩を抑えているわけではないので、書き方を変える必要がある。浮遊性の物質の拡散を抑えているのはある程度事実であるが、それ以上は言えない気がする。	【委員会の意見により修正】 ・分画フェンスに関する図(p5-128)にコメントを追加する。	-
5.6.3 深層曝気設備  本編  P5-133	・深層曝気設備の目的を明記してもらいたい。底層付近からの栄養塩溶出を抑制するためであれば評価し、改善のための検討をしていただきたい。	【委員会の意見により修正】 ・深層曝気装置に関する文章(p5-133)を修正する。	-
5.6.3 深層曝気設備  本編 P5-135～ 5-138	・分画フェンスの効果は、当初予定していたように発揮されているのか、副作用的なものが出ていないか検討が必要である。	-	・分画フェンスによる副作用については、今後ともデータの収集・整理に努め、状況を注視していきたい。

## 6. 生物

項目	意見	整理状況	今後の対応方針
<p>6.3.1 ダム湖内の植生変化</p> <p>本編 P6-64 ~ 65</p>	<p>・植生図の経年変化において、落葉高木林が倍以上に増えているが、7年間のうちに一挙に樹林化が進んだという解釈になる。また、オオオナモミ群落やイタチハギが増えたと言うことは、土中の水量が極端に減ったと言うことで、7年間の間に大きな植生の変化が現れてきたのかどうかを伺いたい。杉植林自体の成長は現地で確認されておられるのか。</p>	<p>【委員会の意見により修正】</p> <p>・落葉高木林が急激に増えたというわけではなく、H13年にはメヒシバ・エノコログサ群落が繁茂していたため確認できなかったものが、H19年度までの間に成長して確認できるようになったと考えられる旨を追加する(p6-64)。</p>	-
<p>6.5 まとめ</p> <p>本編 P6-333</p>	<p>下流河川の生物相の変化で定性的にカマツカが減っており問題としているが、優占種から見れば変化はないということがある。下流河川の環境を元に戻すため、土砂供給、フラッシュ放流を考えているようだが、土砂の量等具体的計画がないまま方針だけではカマツカがいなくなってしまうということにもなるので、出来ることと出来ないことを明確にしたほうがいい。</p>	<p>【委員会の意見により修正】</p> <p>・供給土砂量と生物相との関係性は一概には言えないため、供給土砂量については下流河川への影響をモニタリングしながら順応的に対応していく必要がある旨を追加する(p6-333)。</p>	-

## 7. 水源地域動態 特になし

## 8. その他

項目	意見	整理状況	今後の対応方針
治水 ・利水	・定期報告書の構成で、洪水調節、利水の部分が非常に薄い。本来の目的である洪水調節、利水をもっと充実させるべきである。	-	・定期報告書作成の手引きに従い、可能な限りとりまとめているところである。ご指摘を踏まえ、今後、出来る限り内容の充実に努めていきたい。
治水	・ダムは全ての洪水に対して治水効果があるわけではないことを地域に示して、理解してもらうことも必要である。地域住民が自ら判断できるような情報提供も、大変難しいが努力していただきたい。	-	・パンフレットの作成、浸水想定区域図の公表や整備計画策定時における公聴会において地域住民への情報提供を行っている。ご指摘を踏まえた情報提供になるよう努めていきたい。
生物	・ダム水源地環境整備センターの流況変動研究会の中で、比奈知ダムをフィールドにしてかなり研究を行った経緯がある。土砂供給を始めるに当たっては、どのような指標をモニタリングするのか早急に計画をすることが大事である。	-	・流況変動研究会のご指摘を踏まえ、下流河川における河床材料調査、底生動物調査を継続的に実施してきている。平成20年度から土砂供給試験を開始したところであり、今後ともそれによる下流河川環境の変化を調査していく予定である。
水源地域 動態	・「がさがさ調査隊」を記載しているが、開示しやすい情報だけでなく、余り見せたくない部分も含めて、地域の方に情報を提供してどのように付き合うのかを考える材料にしていただきたい。	-	・今後ともご意見いただいた点に留意して、情報提供に努めていきたい。